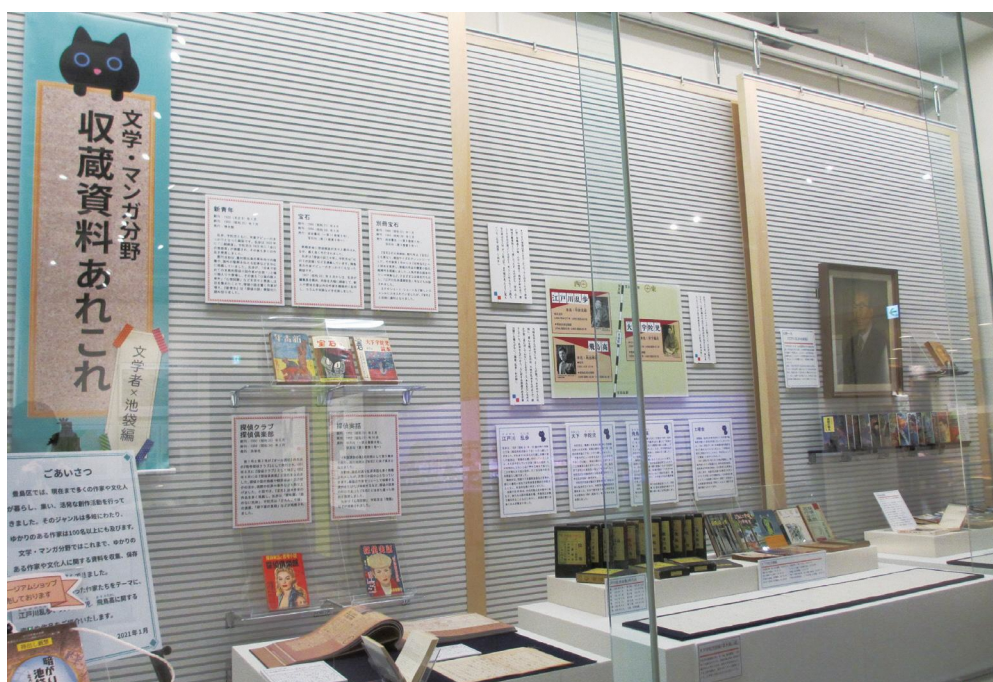


かたりべ139

豊島区立郷土資料館・ミュージアム開設準備だより



展示風景

豊島区では、多くの作家や文化人が暮らし、集い、創作活動が行われてきました。「あれこれ」というタイトルは、豊島区という地域が内包する幅の広さをさまざまな切り口でご紹介できればと付けました。地域に焦点をあてて作品や作家の生活、作家同士の関係性に注目してみると、新たに覚えてくるものがあります。作家の目を通すと見慣れた景色も違って感じられるかもしれません。今後、さまざまな視点で収蔵資料を公開していけたらと思います。

(文学・マンガ 西方ゆり恵)



二〇二一年一月二三日から二月二八日まで、美術分野企画展「池袋への道」にあわせ、常設展示室の大ケース内で文学・マンガ分野の収蔵資料展示「収蔵資料あれこれ―文学者×池袋編―」を開催いたしました。

今回は池袋に集った探偵作家たちをテーマに、江戸川乱歩、大下
うだる、飛鳥高をとりあげました。乱歩が作家になる前に職を転々
としていた時、活弁士を目指した話を書いた随筆「活弁志願記」や宇
陀児が晩年池袋を離れる時に、家の思い出とまちの移り変わりを書
いた随筆「草木傷心賦」の自筆原稿を展示しました。また松野一夫
《江戸川乱歩肖像画》、『江戸川乱歩全集』（平凡社、一九三二・一九
三三）やポプラ社版少年探偵団シリーズをはじめ、それぞれの作家
の著書など、普段はなかなか展示する機会がない資料をご覧いただ
くことができました。

作品を見る読む

21

森山大道と鶴田吾郎 池袋への道展から—池袋駅北口にまつわる二つの作品

企画展「池袋への道——近世の歴史資料、池袋モンパルナス、森山大道」でのメインビジュアルとなった写真(図1)は池袋に活動の拠点を置く写真家・森山大道の近作です。ひらけた空の下、髪の毛やスカートに風を受けながら、ひとり前に歩を進める女性の後ろ姿は、フレームの中で凛とした力強さを発しています。写り込む人々は軽装で、どうやら季節は夏のようなのです。強い西日が影を長くしています。画面の左手にはPARCOのサイン、無数に延びる架線、画面中央部にある駐車場の看板の奥にはダイヤゲート池袋がその頭を見せています。撮影地点は池袋駅北口を線路沿いに少し北上した東京都道四一四号池袋谷原線(やばら)の路上で、ウイロードの近くです。

池袋駅北口の風景といえは、鶴田吾郎による北から南の方角を描いたスケッチ(図2)が企画展に並びました。図1より少し北口に近づいた構図の、沿道や架線にも雪が積もる真冬の景色です。右手には一九五〇年に開業した東横百貨店(現在は撤退)が、左手には東武東上線池袋駅のホームの先端があります。雑司ヶ谷

隧道(すいどう)を歩く人々が描かれています。雑司ヶ谷隧道とはウイロードと呼称が変更される前の名称です。隧道の一番手前にいる人物は荷物を手に提げ子供を背負い、東側から西側に向かっていているようです。スケッチ右下のサインによると一九五六年、およそ六年前の作品です。このスケッチを見てみると、建物の様相は現在と比べればだいぶ変化していますが、北口この辺りの道なりは、ほとんど当時のままと推測されます。そして雑司ヶ谷隧道は『豊島区史』によれば、一九二五年からの存在が確認できますが、一九八六年に改修の記録がある以外は工事の記録がなく、もしかしたら建設当初から隧道も同じ場所にあるのかもしれない。かつて作家が眺めたように、人の往来と街へと、あるいはそうした作家の姿へと、変わらぬ道なりの上で思いを馳せてみる。作品の生まれた土地で、その作品を思い返す。史実に基づいた検証結果を傍らに美術作品に向きあうのもひとつの楽しみ方と言えるでしょう。

今回の展示で、森山大道の「豊島区を撮った」写真を選ぶ作業では、写された

場所の検証が軸となりました。三千枚以上の作品の中から、一枚一枚、街のランドマークを手掛かりに豊島区内だとわかるショットを探し出し、その中から一四八点を選抜しています。特徴的な建物の造形、道の角度、商業施設の看板など、すぐに被写体を特定できる写真もあれば、写真を拡大してやっと見えるチェーン店の看板、歩道のタイルの模様や街灯のデザインが判断の決め手になるなど、一見ただだけではそこが豊島区などの場所かはわからないような写真もあります。しかし展示した森山大道の作品は、検証の結果、すべて豊島の土地で撮られた作品なのです。これらの作品のうち、調査のついたロケ地については「池袋への道」展の図録にロケーションマップとしてまとめています。マップングによって森山の関心がどの地域にあるのかが一目瞭然となっています。ロケ地巡りをする際にはそちらをご参照いただけますと幸いです。作家の目と足取りを辿ってみてはいかがでしょうか。

(美術 堀口麗)

【参考文献】

『豊島区史 年表編』豊島区一九八二年
『かたりべ』一〇〇号 秋山伸一「セピア色の記憶 第二五回 百貨店の街 池袋のゆくえ」二〇一一年



図1 森山大道「記録」43号より 二〇一〇年 インクジェットプリント 一般財団法人森山大道写真財団蔵

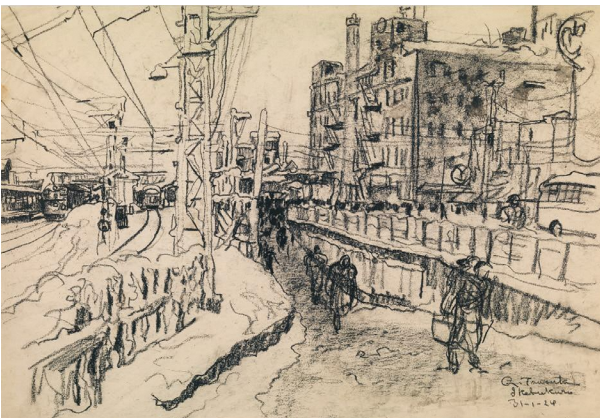


図2 鶴田吾郎「雪の池袋」一九五六年 コピー、紙 豊島区蔵



郷土資料館収蔵資料展「豊島区を走る

都電」では、豊島区内をかつて走っていた王子電気軌道、東京市電、都電、そして現在も運行を続けている都電荒川線（愛称・東京さくらトラム）を取り上げました。コロナ禍にもかかわらず、二〇二〇年一月二日から二〇二一年一月一日の会期中には六〇〇名を超える方々にご来館頂きました。ご来館頂いた皆様からは、「写真に写っている系統の都電を実際に通勤で利用していた」「乗っていたトロリーバスのポールが架線から外れて、



都電17系統展示コーナー

復旧するまで車内で待っていた」などの、当時の貴重なお話をお伺いすることもできました。来館者アンケートでは、「都電だけでなく、地下鉄や都バスについても取り上げてほしい」「西武池袋線や東武東上線についても展示をしてほしい」など、

豊島区における交通機関の歴史について興味のある方が多いということがわかりました。

収蔵資料展関連イベントとして実施した、「はんこペタペタ！パスケース用カードを作るう」と収蔵資料展記念講演会



はんこペタペタ!の様子と都電をモチーフにした消しゴムはんこ



収蔵資料展記念講演会の様子(講師：伊藤 暢直学芸員)

「としまの交通史」も、多くの方々にお越しいただきました。

「はんこペタペタ！」は、定期的に郷土資料館で実施しているイベントで、季節に沿ったテーマの消しゴムはんこを当館職員が作製し、来館者の皆様にうちわやお年玉をいれるポチ袋などに捺して頂くというイベントです。

今回は都電荒川線で運用されている都電九〇〇〇形と都電八八〇〇形に加え、現在は改修されて都電七七〇〇形となった七〇〇〇形の三種類をモチーフにした消しゴムはんこを作製し、来館者の皆様に捺して頂きました。

収蔵資料展記念講演会「としまの交通史」(講師・伊藤暢直学芸員)は、コロナ

ウイルス感染拡大の影響で元々は定員六〇名のところ、参加者間の距離を保つため、通常の半分の定員三〇名で実施しました。講演会では、山手線の歴史と池袋駅の誕生をはじめ、王子電気軌道や東京市電の敷設、トロリーバスの開通までお話しされました。講演会冒頭では昨年未だに発見された高輪築堤の写真をはじめ、貴重な資料や写真も紹介されました。

収蔵資料展「豊島区を走る都電」より、豊島区公式Twitterによる広報活動はスタートしました。従来の広報活動は豊島区公式ホームページと『広報としま』、当館刊行物『かたりべ』などで実施していましたが、より幅広い地域や年齢層の方々に情報を発信することが可能になりました。鈴木信太郎記念館では、以前よりメールマガジンを配信していますが、SNSによる広報活動は郷土資料館では初めての試みとなります。

今後、豊島区立郷土資料館独自のTwitterアカウントやホームページの立ち上げを検討しています。企画展示やイベント、刊行物の情報についてさらに発信していければと思います。

(郷土 水吉雄人)

畑の広がる農村風景 — 豊島区と農業

豊島区立郷土資料館は数多くの農具を所蔵しています。その多くは昭和五九（一九八四）年に郷土資料館が開館した当初に区民の方からご寄贈いただいたものですが、今の豊島区と農業は少し結びつかない気がします。いつ頃まで、どのように農業が行われていたのでしょうか。

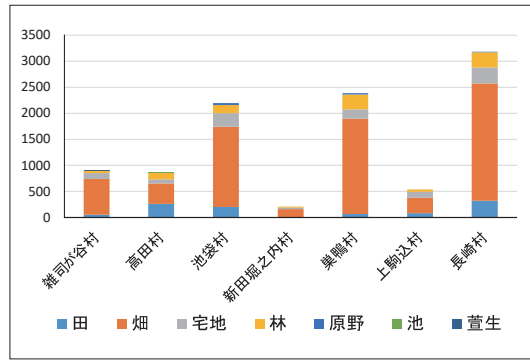


図1 明治21、22年の私有地の地目構成 (反)

図1は明治二一・二二（一八八八・一八八九）年の私有地の地目構成です。面積・割合ともに畑地が圧倒的に多いことが見てとれます。比較的畑地率の低い高田村でも約五〇%、雑司が谷村、新田堀之内村、巢鴨村、長崎村では七〇%以上

が畑地です。水田よりも畑地が多い、畑作地帯だったことが読み取れます。(1)

次にどのような作物が植付けられていたのかを見てみましょう。表1は時代は下って昭和九（一九三四）年・二五（一九五〇）年の作付け面積の多い作物を並べたものです。大麦・小麦が多く、昭和九年の耕地面積（五二七六畝）の四〇%以上、昭和二五年（九二七畝）では六〇%以上を占めています。また、稲作も行われていますが、陸稲が水稲の昭和九年は一〇倍以上、昭和二五年は水稲面積五畝の四〇倍以上作付けられているのも特徴的です。(2)

表1 農作物作付け面積

順位	昭和9年		昭和25年	
	農作物	面積(畝)	農作物	面積(畝)
1	大麦	1199	大麦	339
2	小麦	1078	小麦	228
3	なす	507	陸稲	210
4	陸稲	469	サツマイモ	136
5	きゅうり	453	大根	133
6	大根	417	なす	100
7	サツマイモ	271	ジャガイモ	83
8	かぼちゃ	233	サトイモ	73
9	ジャガイモ	229	かぼちゃ	72
10	キビ	169	きゅうり	33
11	カブ	128	キビ	32
12	サトイモ	102	ごぼう	30
13	水稲	44	トマト	26

昭和二五年の作付け品目を同じ東京都

でも豊島区を含む西郊区とは対象的な東郊区の江戸川区と比較したのが図2です。水稲やれんこんなど水田の作付け面積の割合が大きい低地の江戸川区に対して、大麦・小麦・陸稲などの畑での穀物栽培が多い豊島区の特徴がよくわかります。(2)

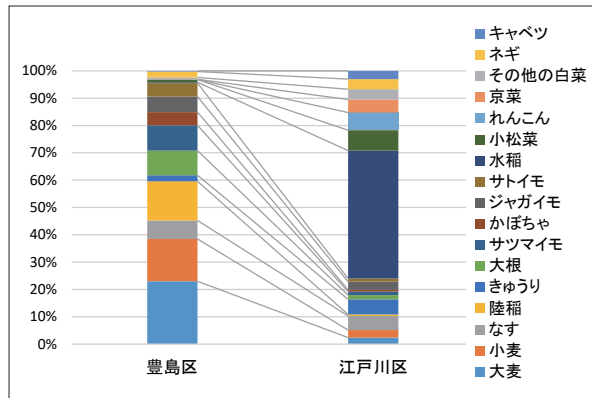


図2 豊島区・江戸川区作付け品目の違い

しかし、時代と共に耕地面積は減少していきます(図3)。特に第二次世界大戦を挟んだ昭和九年から昭和二五年では、三八〇九畝から九二七畝と三分の一以下になっています。(3)

農業従事世帯数も急激に減少し、昭和三〇年代には一桁になり、豊島区における農業はほぼ見られなくなるのです(表2)(4)

(郷土 森田聖子)

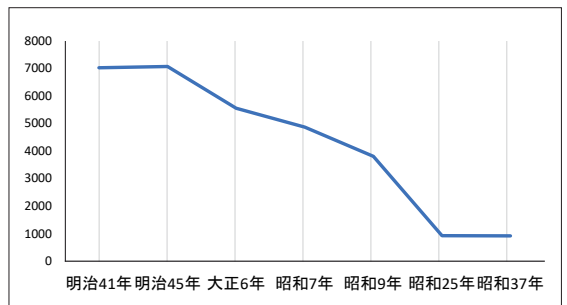


図3 耕地面積の変遷(畝)

表2 農業従事世帯数(戸)

昭和9年	昭和25年	昭和37年	昭和40年
124	60	6	4

※面積の単位は出典に準拠しています。一畝は約九九m 一反は約九九〇m

【参考文献】
 (1) 豊島区一九八三年『豊島区史通史編二』／豊島区一九八一年『豊島区史資料編四』
 出典『明治二一～二二年北豊島郡町村区域戸口資料調査』(2) 東京市役所一九三八年『東京市農業調査書第四分冊』／東京都一九五〇年世界農業センサス・昭和二五年東京都農林水産業調査結果表』(3) 前出(1) (2)／『豊島区史通史編二』 出典『東京府統計書』／帝国農会一九三五年『東京市農業に関する調査(第二輯)東京市域内農業経営の実態』／東京市役所一九三六年『東京市農業調査書第一分冊』／東京市役所一九三七年『東京市農業調査書第二分冊』／東京都総務局統計部一九六二年『東京都農業経営基本調査報告 農産物商品化程度別農家統計報告』(4) 前出(2) (3)／東京都総務局統計部『東京都農業経営基本調査報告一九六五年中間農業センサス報告』

■豊島区の特産物

以前、本シリーズで、豊島区の特産物として「駒込茄子」(94号)、「東京山茄子」(96号)、「雑司ヶ谷南瓜」(97号)、「菓鴨小燕」(98号)、「大根」(99号・101号)の野菜を紹介しました。

■種子屋と榎本文書

豊島区域では、江戸時代から昭和前期にかけて、多くの野菜が栽培されましたが、優良品種の普及に貢献したのが、種苗業者(種子屋)でした。その一軒、幕末から菓鴨庚申塚の中山道沿いで種子問屋を営んできた榎本留吉商店(東京種苗)より、一九九一年歳の解体に伴い約七万点の資料を寄贈いただきました(榎本泰吉家文書)。その整理と調査の過程で、区内の特産物の特徴が次第に明らかになってきました。が、昨秋、豊島ミュージアム講座「豊島区域の特産物」の準備で、榎本文書を改めて調べたところ、雑司が谷地域特産の茄子と南瓜の写真を発見しました。

■色つや抜群!東京山茄子

茄子栽培は、明治初期から区内全域で盛んに行われ、「東京山茄子の本場地」として、その品質が高く評価されました(「東

京附近本場作付蔬菜の栽培」明治四五年)。

『種苗世界』第二号(昭和七年)には、「山茄子は産地であつた池袋、雑司ヶ谷、滝野川、板橋、長崎方面を山の手と称した所から「山の手茄子」の意味から出た名称であつて、煮茄子又は漬茄子として美味であるため、夏季に於ける東京の需用は頗る多し、大きさは中位で、形状は長円形をなし、果皮は薄く紫黒色をした茄子らしい、美形であります。果肉は稍緊りあつて味がよろしい。」とその特長が紹介されています。

①は中生山茄子が実っている珍しい写真です。「草性に強く形は卵円中長にて、色は良好な豊産種にして市場向としても自家用向としても共に品種は最上級の山茄子です。」とあります。白黒写真なのが残念ですが、姿・色つやとも抜群で、見るからに美味しそうな茄子です。

■人気の二品種の南瓜

南瓜は唐茄子とも呼ばれ、明治三〇年代には高田村(雑司ヶ谷)が北豊島郡で多数の産地として知られていました。高田村の篤農家で種苗業も営んでいた鍋木家には、「御当地名産の菊座南瓜」「名産内藤南瓜ノ純系採種」の種子のほか、「雑司ヶ谷黒皮南瓜」の注文が全国各地から来ており、新宿の内藤邸発祥の内藤(菊座)南瓜と、板橋付近の原産とされる早生種の黒皮南瓜の二品種が栽培され、ともに人気があつたことがわかります。

②は左が大菊座南瓜で「大型扁円形種で上から見ると大きい菊の花の様に見事です。外皮頗るなめらかで肉厚く甘みに富み栽培容易です。」とあります。右は「黒皮雑司ヶ谷南瓜」で、「東京雑司ヶ谷附近を本場とする早生種。小型で腰高く外皮に大縮みがあり肉厚くよくしまり風味最も宜く外皮黒く。開花後三四週間で既に食生にして美味なるが故に早春栽培に適し営利的栽培として本種は第一です。」との宣伝文句があり、外見によらず、美味で市場価値が高い品種だつたようです。

■変化する特産物

特産物は時代とともに変化していきます。姿形と味の良さに加え、病気に強く多産であること、栽培期間が短く、早く出荷できるなど、農家や消費者の需要に応じた品種改良を行なうことで、新たな特産物を生み出し、市場を開拓していったのが種子屋でした。榎本文書には各地の種苗カタログが多数残されています。これらを丹念に見ていくことで、野菜の品種の多様さや人気品種の移り変わりを比較できそうです。

今後の課題としたいと思います。

(郷土 横山恵美)



①『カネト商報』一八九号、榎本留吉商店、昭和十三年発行



②『タキイ種苗目録』第402号、タキイ種苗(株)、昭和13年発行

移転準備中

飯能市へ新倉庫



当館倉庫の飯能移転

複合ビルの七階にある当館は、スペース不足から、これまで近隣にあるいくつかの施設を倉庫として活用してきました。そのなかで旧第十中学校（以下、旧十中）には、昔の生活道具など様々な収集資料を収蔵していましたが、旧十中跡地での野外スポーツ施設整備計画に伴って、飯能市にある区有地へ新たに倉庫を建設して、そこへ収集資料を搬送することになりました。この新倉庫は二〇二一年秋頃に完成予定です。当館では、資料搬送の準備として、二〇一九年度から資料の棚卸やデータベース化といった作業を行なっています。

博物館の棚卸

倉庫の移転にあたっては、棚卸を行なうことで現時点における収蔵状態を明らかにしておく、資料の紛失や散逸といったことがないようにします。こうした作業には、学芸員資格を持つ者や、資格取得を目指す学生、あわせて一名が「調査員」として参加しています。

ところで、一般に棚卸という言葉は、決算等のために、商品在庫を数えて品質を

調査し、価額を評価することを指しますが、寄贈による収集を基本とする博物館資料の場合は、収蔵物の現状調査といった意味合いで使うことがあり、当館でもそのように呼んでいます。

例えば、展示活用や資料の調査・整理をするなかで資料の移動が行なわれることから、予め定めた収蔵場所に確かに資料が収蔵してあることを確認します。その際、資料状態の点検は特に重要です。資料一点一点を直接見ることで、カビの発生や資料の破損がないかを確かめ、資料にかかる余計な負担や保管上の問題を早期発見し、対策を講じます。そのため、貸出記録や収蔵場所ごとの資料点数といった帳簿の確認をすることだけで棚卸を済ませるわけにはいきません。

棚卸の方法

当館で行なっている棚卸は、①資料そのもの、②資料に取り付けたタグ、③個々の資料に関する記録カードの三点が、間違いなく内容一致して所定位置に納まっていることを、資料全点それぞれ確認していきます。



棚卸の作業風景（2021年2月14日撮影）

（郷土 鄧君龍）

具体的には、①と②を見ながら棚卸票に収蔵場所ごとの資料リストを作成し、資料とは別にまとめて保管している③と照合します。なかにはこの一致がうまくいかないこともあり、推理・搜索をしながら整理上の問題を解消していくことも、棚卸作業と並行して行なっています。また、棚卸票の内容をデータ入力することで、収蔵場所ベースのリストも作成しています。実際の収蔵状況を正確に反映したりリストが一度完成すれば、検索や記録修正を一つのデータファイルでできるようになります。

飯能に倉庫を移転して以降も、このリストデータを基礎にして資料整理を行ない、ゆくゆくは豊島区の所蔵資料を誰でも検索できるように公開して、さらに活用されることを目指します。

編集後記

「かたりべ」三九号をお届けします。一月三日から二月二十八日まで、郷土資料館と東京芸術劇場を会場に、美術企画展「池袋への道」を開催しました。また常設展示室では、文学・マンガ分野による「収蔵資料あれこれ 文学者×池袋編」を同時開催しました。緊急事態宣言下での開催となりましたが、池袋在住の写真家森山大道氏の作品と区ゆかりの歴史資料と美術作品が一堂に集まった企画展は、好評のうちに無事終了しました。また江戸川乱歩をはじめとするミステリ作家の初公開原稿なども注目を集めました。三月二三日からは、収蔵資料展「浮世絵・和本科レクション」が始まります。こちらもどうぞご期待ください。（郷土 横山恵美）

かたりべ
No.139

2021年3月19日

豊島区立郷土資料館

東京都豊島区西池袋2-37-4
としま産業振興プラザ7階

電話 03-3980-2351

URL

<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/bunka/shiryokan/index.html>

資料寄贈受入れの一時休止のお知らせ

資料移転及び準備作業のため
資料寄贈の受け入れを
2022年春頃まで、
一時休止いたします。



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。